

<お知らせ・豆知識の履歴>

2025年12月1日

年末に行われる大掃除。その由来となったのが、「すす払い」と呼ばれる行事です。「すす払い」の歴史は古く、始まりは平安時代の宮中行事と言われています。

単に宮中を掃除するというだけでなく、厄払いの意味が強く込められた儀式として捉えられていたようです。

その後、室町時代に入ると「すす払い」は神社仏閣を中心に、仏像や本堂を清める行事となりました。

庶民の間にこの習慣が根付き始めたのは江戸時代で、江戸城で12月13日に煤払いが恒例となり、これを庶民が真似ることで全国的に広まりました。

年に一度の大掃除という現代の認識とは違い、当時の人々は

半月かけて行われるお正月準備の最初に行うのが「すす払い」で、「煤納めの日」や「正月事始め」と呼ばれるようになりました。

西本願寺で行われる500年余り続いている師走の風物詩。

門徒や僧侶らが竹の棒で堂内の畳をたたき、舞い上がったほこりを大うちわでおぎ出します。



西本願寺のすす払い

【ハープアンサンブルとボンゴ】

湘南のハーピスト安井弘子と仲間たちによる小型ハープアンサンブル。

ハープがずらりと並びます。

ボンゴも加わって、ほんのリラテンな味わいに。

年の瀬のひとときを湘南台アートスクエアで楽しみませんか。

開催日 2025.12.26

時間 17:00~17:30

場所 湘南台駅地下アートスクエア

参加費 観覧無料



ミニコンサート

2025年11月23日

11月23日は、その年の新米を初めて口にして良い日だと知っていましたか？

毎年新嘗祭の日までは、その年の新米を食べてはいけないと言われることがあります。

それは稲を手で刈り取っていたころは、今より収穫に日数がかかっていたことに起因します。

昔は9月ごろから収穫を始めても、米粒を米俵に入れるまでには2ヶ月ほどかかっていたと言われ、すべて完了するのがちょうど新嘗祭のある11月ごろでした。

加えて神様や天皇より先に新米を吃るのは恐れ多いという

考え方から、新嘗祭までは新米を慎むという習わしができたと推察されています。

現在では技術が発展し、新米が出回るのが9月ごろになっています。

新嘗祭まで新米を食べない風習も薄れてきています。



新嘗祭まで新米を食べない風習

2025年11月11日

「酉の市」は、東京浅草をはじめ関東地方でおこなわれる、家内安全と商売繁盛を願うお祭りです。

金刀比羅大鷦神社では、2025年11月12日(水)に「一の酉」、2025年11月24日(祝・月)に、「二の酉」の日程で開催されます。酉の市は12日目に1度巡ってくるので、年によっては2度、3度行われます。



酉の市

酉の市の見どころは、なんといっても縁起熊手と屋台のにぎわい。

参拝だけでなく、見て楽しい・買って嬉しい・食べておいしい要素が詰まっています。

縁起熊手（えんぎくまで）は、キラキラとした豪華な装飾が特徴で「福をかき集める」とされる縁起物。商売繁盛、金運、家内安全など、さまざまな願いが込められています。

金刀比羅大鷦神社の周辺にはたくさんの人々がお参りに訪れます。

横浜橋商店街から、大通公園に沿い17~18件ほどの熊手屋さんが並んでいます。

豪華な熊手ほど縁起がよいとされており、どのくらいの重さなのか？どこに飾るんだろう？と想像を絶する大きさの物も…。

あちこちで購入したお客様さんに向けてリズミカルな掛け声が聞こえます。

威勢のいい声と拍手と歓声が「酉の市」らしさを演出しています。

【令和7年12月7日(日曜日)開催】

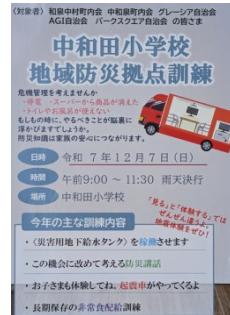
12/7(日)中和田小学校地域防災拠点訓練を9時から11時30分実施。

(訓練内容) 防災に関する講話

給水タンクを使った給水訓練

起震車体験

参加された方には非常食を配布いたします。



地域防災拠点訓練

【令和7年11月22日(土曜日)開催】深谷通信所跡地中央広場活用イベント

場所：深谷通信所跡地中央広場（泉区和泉町）

広々としたはらっぱを活用し、防災・スポーツの各種体験型アトラクションを中心としたイベントを実施します。

はしご車、起震車等の搭乗体験のほか、バブルボール等のスポーツ体験、

ぴったり530g(ごみゼロ)ゲームや太陽光発電付きモビリティ展示、

障害福祉事業所等によるパンや焼き菓子、手芸品等の販売を行います。



2025年11月3日

十日夜（11月10日）十日夜（とおかんや）とは旧暦10月10日に行われていた収穫祭のこと。稻刈りが無事に終わったことを祝い、田んぼの神様を祀ります。この日は、田の神さまが山に帰る日とされ、無事に稻刈りができたことを感謝し、来年も作物が豊かに実るよう願います。昔は、山の神さまが田んぼに宿り、稻を大きく育ててくれ、稻刈りが無事に終わると、神さまは山へ帰っていくと考えられていたようです。十日夜の風習は、地域によってさまざまな形で行われています。西日本では「亥の子（いのこ）」と呼ばれることがあります。

民俗行事の「亥の子」の歌には「亥の子、亥の子、亥の子餅ついて 繁盛せい 繁盛せい」のように、家内繁盛を願う言葉が多く含まれます。

《かかしあげ》

田んぼに立ち、稻の無事を見守ってくれた案山子（かかし）を田の神さまに見立てて、十日夜の夜に家に持ち帰ります。



餅などをお供えして稻の収穫祭を行うところも少なくないようです。

2025年の十日夜は11月29日（土）ですが、十日夜はお月見がメインではないため、

月齢に関係なく新暦の11月10日に祭りを実施する地方が多いようです。

11月8日（土）[地蔵原の水辺]の除草作業

11月30日（日）の[ふるさとまつり]開催準備のため[地蔵原の水辺]の除草作業を実施いたします。皆さまお忙しいところ恐縮ではございますが、ぜひご参加いただきますようお願い申し上げます。雨天時は中止します。

実施日時：2025年11月8日（土）9:00～11:00、集合場所：地蔵原の水辺



持ち物：作業に適した服装、軍手、（ゴミ袋は自治会で用意します）

汚れても良い服装でお越しください。「お子さんと一緒に参加も大歓迎です！」



「途中参加・途中退出もOKです！」「みんなで楽しく除草作業しましょう！」

2025年11月1日

11月3日は「文化の日」。

1946年11月3日に日本国憲法が公布されたことが由来になっています。

「自由と平和を愛し、文化をすすめる」という日本国憲法の趣旨から

1948年に「国民の祝日に関する法律」が制定され、憲法公布から

2年後、1948年11月3日は明治天皇の誕生日にあたる「明治節」から

「文化の日」へと変更され、国民の祝日として公式に定めされました。

なお、憲法は公布から半年後の1947年（昭和22年）5月3日に施行

されたため、5月3日も「憲法記念日」として国民の祝日となっています。



第14回 泉区民ふれあいまつり

～みんなで笑おう！地域の”つながり”を未来へ～

日時：令和7年11月3日（月曜日・祝日）午前10時～午後2時

場所：和泉遊水地3池・4池（ステージは4池）

◆ステージショー ◆模擬店 ◆展示ブース

◆ふれあい広場（子どもの遊び場、軽スポーツコーナー、はたらく車大集合！など）



2025年10月18日

旧暦10月の和風月名、『神無月』の由来は諸説あります。

11月29日（土）から12月6日（土）頃がこの期間に該当します。

1. 全国の大神様が出雲大社に集まり神様が不在となる月となって
いることから神無月（かんなづき）となったという説が最も有名です。

2. 伊勢神宮では10月15日～17日に神嘗祭（かんなめさい）が
行われます。その神嘗祭（かんなめさい）が行われる月である
ことから神嘗月（かんなめづき）と呼ばれ、それが転じて神無月と
なったという説もあります。

3. 雷無月（かみなしづき）

10月は、雷が鳴りにくい時期に入ります。そこから「雷無月（かみなしづき）」と呼ばれるようになります、それが転じて「神無月」となったという説もあります。

4. 酿成月（かもなしづき）

お酒を神様に捧げる時期であることから「醸成月（かもなしづき）」と呼ばれていました。

その「醸成月（かもなしづき）」が「神無月（かんなづき）」に転じたという説もあります。



出雲大社の西方約1キロ、
稻佐の浜で神迎神事が行わ
れます

泉区の和泉遊水地で10月4日（土）、「泉区フリーマーケット」が開かれます。午前10時から午後3時まで会場にはフリマのほかにハンドメイドの販売やワークショップが並ぶほか、キッチンカーや飲食店の出店も。また当日は会場に泉区のマスコット「いっしん」も登場する予定。



10/12（日）和泉中央連合自治会スポーツフェス 2025 開催します！！

今年も中和田中学校にて開催いたします！

もちろんパン食い競争も。皆様、奮ってご参加ください。



◆2025 ムーンライトフェス at TOTSUKA

戸塚区商店街連合会主催のイベントです。

商店会店舗を中心とした戸塚の美味しいフードと音楽を楽しめます。

【開催日】10月18日（土）

【開催時間】12:50～19:00

【開催場所】戸塚駅東口ペデストリアンデッキ（JR戸塚駅橋上改札出て右すぐ）

【料金】観覧無料



横浜イングリッシュガーデンでは、2025年10月24日（金）から10月26日（日）の3日間限定で、夜間ライトアップイベント「ハロウィンナイト」を開催します。

「ハロウィンナイト」では、通常は18:00で閉園のところを、営業時間を20:00まで延長し、ハロウィン・ディスプレイに明かりを灯します。ハロウィンらしい雰囲気が漂う、夜のガーデンを散策してはいかがでしょうか。

2025年8月31日

9月の祝日は、9月15日（月）の「敬老の日」と、9月23日（火）の「秋分の日」です。

「敬老の日」は「多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し長寿を祝う日」として制定され、「秋分の日」は「祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ」ことを趣旨としている祝日です。

秋分の日をはさんだ7日間は、「秋のお彼岸」と呼ばれます。「彼岸入り」は9月20日、「お中日」と呼ばれる秋分の日をはさんで9月26日が「彼岸明け」となります。

「十五夜」とは1年で最も美しいとされている月を鑑賞しながら収穫などに感謝をする9月の行事の一つです。秋の真ん中である中秋は、空が澄みわたり最も月が美しく見えるため、「中秋の名月」と呼びお月見をするようになりました。

「十五夜」は旧暦の「8月15日」。2025年の場合は9月から少しずれて10月6日に行われます。月の周期の関係で、十五夜の日に確実に満月になるわけではありませんが、暦を優先して「十五夜」の日にお月見を楽しむことが多いようです。

9月20日横浜市民防災センター及び沢渡中央公園にて

「楽しい」から「備える」へ。親しみやすく、楽しみながら防災意識を高められる体験型イベント【ぼうさい縁日!!】を開催。

非常食の試食、こども用防火服の着装体験、消防車の展示に加え、縁日ブースなど、こどもも大人も楽しめるコンテンツを用意。



10月1日より全国一斉に国勢調査が実施されます。

9月20日(土)～9月30日(火)

調査員が各世帯を訪問し調査書類を配布します。

防災意識を高められる
体験型イベント

2025年8月2日

8月は様々な行事やイベントが行われる月です。

皆様のお気に入りに出掛けられては如何ですか。

6日、9日は広島、長崎に原爆が投下された日です。

各地で平和記念式典が開かれます。

11日は国民の祝日「山の日」です。

山に親しみ自然の恩恵に感謝する日です。

13日から16日頃にかけてはお盆です。

先祖の靈を祀る行事が行われます。

各地で夏祭りや花火大会が開催され、多くの人で賑わいます。

7日は立秋です。暦の上では秋の始まりとされ、暑さのピークを迎える時期でもあります。



太陽に向かって咲く花
向日葵

2025年7月6日

21日(月)は海の日です。海の日は毎年7月の第3月曜日に定められており海の恩恵に感謝するとともに海洋国家である日本の繁栄を願う日とされています。

「海の日」は明治天皇が明治9年に50日をかけて北海道・東北地方を巡幸された帰路に初めて軍艦以外の船舶である明治丸に乗船し横浜に安着した7月20日を記念して制定された祝日です。この日は長く「海の記念日」と呼ばれてきましたが、平成七年の法改正で翌年より「海の日」として祝日になりました。

26日(土)、27日(日)には須賀神社例大祭が執り行われます。

本年は須賀神社の神輿が再奉製されてちょうど75年に当たる年です。

26日(土)、27日(日)には第49回 神奈川大和阿波おどりも開催されます。たくさんの連が商店街を練り歩く関東屈指の阿波踊りです。踊り手たちが大和駅東側商店街を路上で演舞しながら移動する流し踊りや振興協会所属の選抜メンバーによる迫力ある総踊りが実施されます。笛や太鼓、三味線などの音色とともに披露されます。日中は大和駅東側プロムナードでキッチンカーや、縁日屋台がたくさん並び、おいしいグルメが味わえます。



「海の記念日」の由来とな
った明治丸 東京海洋大学
明治丸海事ミュージアムに
て特別公開

2025年6月20日

京都では6月半ば頃から水無月という和菓子が登場します。

三角形のういろうの上に煮小豆をのせて固めたもの。小豆の赤色には魔除けの力があると考えられていて6月30日の「夏越(なごし)の祓」に水無月を食べ、残り半年の無病息災を祈る風習があります。

水無月というのは暦上で6月のことを指しますが、なぜ和菓子にも同じ名前をつけたのか?その由来は、旧暦の6月1日に氷を食べることで、夏バテを予防するという風習から来ているそうです。6月1日に氷を食べて夏バテ予防を祈願するのは、元々室町時代の宮中で行われていた行事で、この行事を行い暑気払いをしていたのですが、当時の庶民の方々は高級品である氷入手することはできませんでした。代わりとして、氷に似たお菓子を食べることによって、夏バテ予防をすることになったそうです。



和菓子 水無月

2025年6月3日

時の記念日 6月10日は、日本の記念日の1つです。

日本で初めて時計（「漏刻」と呼ばれる水時計）による時の知らせが行われたことを記念して制定されました。記念日ですが国民の祝日にに関する法律に規定された国民の祝日ではありません。時の記念日は671年天智天皇の時代に日本で初めて時を知らせたという日本書紀の記事を元に制定されたそうです。時計は「漏刻（ろうこく）」という水時計で昼間しか使えなかつた日時計と違い、太陽の出でない夜間も時間がわかるようになりました。大正時代に時間を守ることの大切さを教えるために定められたそうです。



水を使って時間を測る時計

2025年5月16日

鏡沼（八幡平ドラゴンアイ）

山が雪解けを迎える5月下旬～6月上旬にだけ「ドラゴンアイ」と呼ばれる絶景が見られます。

高山の山頂近くにある池で確認される自然現象です。

コバルトブルー色を放つ雪解け水の真ん中に、丸く残った雪が竜の目のように見えることからこう呼ばれています。

メジャーなものは御嶽山（三ノ池）と岩手県・秋田県にまたがる八幡平（鏡沼）の2例しか確認されておらず極めて希少な自然現象です。

御嶽山は往復6時間ほど登山をしなければ辿り着けない場所ですが、

「八幡平ドラゴンアイ」は八幡平山頂付近に位置する「鏡沼」で見ることができます。

冬の間に降り積もった雪が春になり周辺部と中心部が雪解けすることで中央部が浮力で持ち上がりドーナツ状になり、そこに日の光、空の色などの様々な条件が重なって龍の眼のような神秘的な景観が形成されます。



鏡沼（八幡平ドラゴンアイ）

2025年5月11日

葵祭は京都三大祭の中でも一番古いもので上賀茂神社と下鴨神社の例祭。5月1日の前儀とよばれる競馬足汰式、5月3日の流鏑馬神事、5月4日には斎王代女人列御禊神事など、さまざまな儀式が行われます。

5月15日、平安装束をまとった500人以上の行列が京都御所から下鴨神社を経て上賀茂神社へと向かう「路頭の儀」がメインの見どころです。

「路頭の儀」は天皇の使者である勅使が下鴨、上賀茂の両神社に参向する道中。

近衛使（勅使代）をはじめ検非違使、内蔵使、山城使、牛車、風流傘、斎王代、馬36頭、牛4頭、500余名の行列が京都御所建礼門前より出発し、王朝絵巻ながらに行われます。行列のなかで、ひときわ目を引く乗り物が「御所車」と呼ばれている牛車。薄紫色の藤の花の装飾を揺らしながら車輪を回してゆっくり進みます。

また、大きな傘の上に、牡丹や杜若などの花を飾り付けているのは風流傘。このほか、行列には、さまざまな道具類が登場します。



御所車と斎王代

2025年5月6日

五月の第二日曜日は母の日です。

母の日にカーネーションを贈るという習慣はアメリカで一人の女性が母親の命日に教会で母が好きだった白いカーネーションを参列者に配ったことからきています。日本に母の日が伝わったのは明治時代の終わりごろとされ、キリスト教関係者の間でカーネーションを配る母の日のイベントがおこなわれるようになり森永製菓が1937年に「森永母の日大会」を開催したことがきっかけで1947年に5月の第2日曜日が母の日として制定されました。母親を失くしている人は白いカーネーション、母親が健在な人は赤いカーネーションを胸に飾っていましたが、やがて母親にカーネーションを贈る習慣に変化したといわれています。母の日のプレゼントは実用的なアイテムや母親のライフスタイルに合わせたギフトなど多様化しています。これからのお母さんは、カーネーションだけにとどまらず、「母に感謝を伝える日」として、あなたらしい母の日の過ごし方を見つけてはいかがですか。



母の日プレゼント

2025年5月1日

全国で5月に凧揚げが行われます。

相模原市新戸である8間四方（128畳）の大凧は日本一大きな凧です。座間市大凧まつりは、100人の引手で大凧を揚げることが特徴です。泉区では伝統文化である「相模凧」を揚げる凧揚げ会が開催されます。相模凧は端午の節句に子どもたちの健やかな成長と五穀豊穣を祈願して揚げられる泉区の伝統文化で400年の歴史があると伝えられています。竹の骨組みに和紙を貼った正方形の凧で「ビーン」という独特のうなりをあげるのが特徴です。大空に舞う大凧を是非お楽しみください。



凧揚げイベント

2025年4月25日

今年も桜の季節がほぼ終りました。あっという間に桜の花は散ってしまうため、美しいと言いますがやはり名残惜しいです。

しかし、桜のあとにりんごの花が見られます。

りんごの花は、桜の花と違った可愛さ、可憐さがあります。

りんごの産地ではりんごで花見をしています。

桜は葉っぱが出る前にピンクの花がまとまって咲くのに対し、りんごの花は、新緑の葉っぱとともに蕾のピンク・花びらの白で枝を彩ります。品種によって花の色や大きさ咲き始めるタイミング、咲く数も違うので楽しいものです。



リンゴの花

<桜とリンゴの花の違い>

花の形は似てますが色や香り、そして一番目立った大きな違いは咲き方です。

葉と花がどちらが先に出るかの違いです。 桜：花→葉 リンゴ：葉→花

桜は満開まで花のみですから全体が桜色に包まれ後に葉桜になります。

リンゴは若葉が先に出てから白い花が咲くので満開時では白色と緑色の混合となります。

2025年4月17日

関東では葉桜となっていますが、東北で次々と桜が開花しています。

青森では4月17日に開花発表され4月下旬に満開の予報です。

今年は開花が早くなっています。

北海道でも平年よりも1週間前後早い開花予想となっています。

全国で最も開花の遅い釧路では5月7日に開花を迎え、桜前線はゴールへと向かいます。

北陸や長野県、東北南部は今が見頃のピークで今週末にかけては各地でお花見を楽しめそうです。



五稜郭タワーからの景色

2025年3月24日

24日(月)、東京で桜の開花宣言がありました。

これから桜の開花が進み、桜の花見のシーズンもすぐそこまで近づいています。

桜の開花時期は、品種によって異なります。

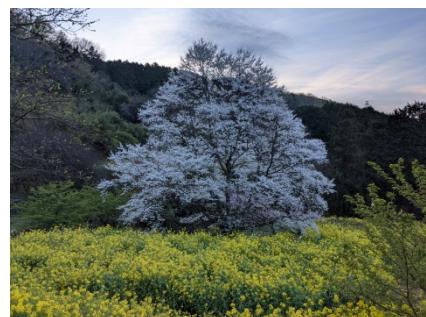
「桜の開花期はカンザクラ類に代表される

早春に咲くものがあったり、晩春に咲くものがあったりと、案外長期にわたっています。

これから「咲き始め」「もうすぐ満開(七分咲き)」「満開」

「桜吹雪」と、いろんな桜の様子を楽しむことができます。

皆さんはどのタイミングがお好みですか？



秦野市蓑毛の薄墨桜

2025年3月8日

2025年のスギ花粉の飛散は過去最多で関東地方は昨年の約2倍との報告です。2年前も多く飛散しましたが、それよりも多く、今まで軽症の方は重症化の恐れがあります。

昨夏の「高温・多照・少雨」により、スギの花粉がかなり大量にできている様です。スギ花粉は、3月上旬には広い範囲でピークを迎え、ピークの期間は10日間から1ヶ月ほど続く見込みです。

また、ヒノキ花粉のピークは3月下旬から4月上旬で、

期間は5日間から2週間ほど続くそうです。

強い風が吹く日や急に暖かくなる日には、花粉の飛散が極めて多くなります。

花粉情報や気象情報を確認して、万全な対策を心がけましょう。



2025年2月24日

京都・下鴨神社では3月3日に「流し雛（ながしひな）」を行います。

境内に流れる御手洗（みたらし）川にひな人形を流し、子供たちの無病息災を祈る神事です。

雛壇に飾られるきらびやかな衣装に対して、流し雛は色紙などの簡素なものが用いられます。

流し雛とは、身のけがれを和紙でできた雛人形に託して水に流し、それを祓うという平安時代よりの習慣です。

流し雛の式典として、お雛様は十二単、お内裏様は衣冠の平安装束を身にまとい流し雛の儀を執り行います。



2025年2月15日

天皇誕生日の祝日は、平成のあいだは12月23日でしたが、令和元年から今上天皇（第126代天皇徳仁）の誕生日である2月23日に移りました。

天皇の誕生日は「天長節」の名で祝わっていましたが、

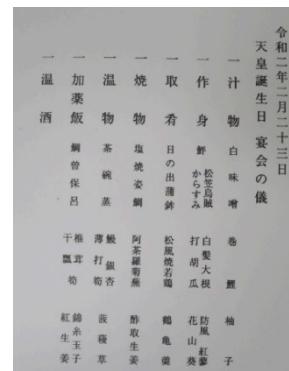
1948年（昭和23年）に「国民の祝日に関する法律」が制定されると、天長節は「天皇誕生日」という祝日に改められました。

明治天皇が1912年に崩御された後、「明治天皇の功績を世に伝えたい」という国民の声が上がり、1927年に明治天皇の誕生日11月3日は

「明治節」という祝日が制定されました。1948年の国民の祝日に関する

法律制定により、明治節は廃止され、11月3日は「文化の日」になりました。

昭和天皇の誕生日は4月29日でした。現在、この日は「昭和の日」として祝日に制定されています。



2025年2月11日

涅槃会（ねはんえ）2月15日はお釈迦さまが入滅された日です。

釈尊涅槃会（しゃくそんねはんえ）は、釈迦の誕生にちなむ仏性会、釈迦の悟りにちなむ成道会とともに三大法要として重んじられています。各寺院では涅槃図を掲げ、釈迦の最後の説法を収めた「遺教経」を読誦します。

「釈迦涅槃図」とは、沙羅双樹（さらそうじゅ）の下でお釈迦様が入滅される情景を描いた図で、横臥した釈迦のまわりを、弟子や動物が取り囲んだ図です。

なかでも京都興福寺の吉山明兆作の涅槃図はその雄大さで知られています。



2025年2月9日

建国記念日2月11日は、国家の基礎が確立したことを祝う日です。

日本では実際の建国日が明確ではないため建国神話を基に建国を祝う日として「建国記念の日」が定められました。



「建国をしのび、国を愛する心を養う日」として1966(昭和41)年に定めされました。

2月11日は初代天皇である『神武天皇』が即位された日です。

旧暦の1月1日は太陽暦に換算すると2月11日となります。

神武天皇とは、日本最古の歴史書である古事記や日本書紀に出てくる人物であり、古事記は神様や日本という国がどのように産まれたか等が記述されています。

建国記念の日らしさを感じる過ごし方をしてみてはいかがでしょうか

橿原(かしはら)神宮で行われる例祭「紀元祭」が2月11日(火・祝)に天皇陛下の御名代である勅使参向のもと斎行されます。

なぜ橿原神宮に勅使が派遣されるのかというと、日本の初代天皇である神武天皇が即位したのが橿原の地にあった大和橿原宮とされているためです。まさに日本という国ができた場所です。

2025年2月4日

2月8日の『事八日』は、物忌み(さまざまな日常行為を控える行為)の日と考えられ、この日は仕事を休む風習が各地で行われていました。

この日、針仕事を休み、折れた針などを豆腐などに刺して供養する針供養が行われるのもその一つです。

人々が仕事を休んで家に籠るのには理由があります。

それは事八日には「妖怪」が家にやってくるからなのです!

事八日の晩に「一つ目小僧」がやってくるとされています。



事八日になると人々は長い竿を用意し、その先に網カゴを吊るしました。

一つ目小僧は、たくさんの網の目に驚いて、その家に近づかなくなるそうです。

網カゴの他にも、戸口に樅を立てかけたりすることで妖怪が寄り付かなくなるそうです。

ヒイラギやイワシの頭を吊るして追い払う例もあります。

いわしの頭を焼くときのけむい匂いと、ひいらぎのトゲが鬼から守ってくれるという風習です。

軒先に吊るして無病息災を願いましょう。

2025年1月31日

天王森泉公園では、毎年節分祭が開催され、災厄や邪気を祓い、福を呼び込む

「豆まき行事」が行われます。今年の節分祭は2025年2月2日(日)に開催。

天王森泉公園は和泉川沿いに広がる水田、それを縁どる斜面緑地が

昔懐かしい農村の面影を今に伝える泉区の南部。

台地の崖線から湧く豊富な湧水をいかして、流域には20に上る製糸場が営まれた歴史を持ちます。

一角に雑木林を主体とした面積約35,000m²の本公園があります。

正面には製糸場の本館が再生され、涸れることのない湧水が自慢です。

天王森泉館(旧清水製糸場本館)・湧水の森・見晴らしの丘・くわくわ森の

4つのエリアに分かれています。



2025年1月18日

1月25日は鎌倉行事が盛り沢山です。

幕府の鬼門(北東)を鎮護する神として頼朝により、祀られた鎌倉荏柄天神社の「初天神」の縁日です。学問の神様として尊敬されている菅原道真に因んで始まった「筆供養」も執り行われます。



書家や歌人などをはじめとする参拝者が持ち寄った愛用の

筆や鉛筆を焚きあげて供養することにより書道や字の上達を願います。

常楽寺(大船)でも25日に秘仏の木造文殊(もんじゅ)菩薩坐像が開帳され、文殊菩薩の供養をする祭り「文殊祭」が行われます。

この日以外は開かれない秘仏である文殊菩薩像は右手に如意という道具、左手に経巻を持った鎌倉時代の作ですが頭部は開山大覚禪師が宋より伝えたものだといわれています。

2024年12月2日

横浜・山下公園にて2024年12月5日(木)から2025年3月2日(日)の期間

「Winter Wonder Park Yokohama2024」が開催されます。

異国情緒あふれる山下公園の風景と共に、光と音楽が融合した幻想的な空間に設置されるイベントです。家族や友人同士で1日中楽しめる多彩なアクティビティが満載です。



横浜の冬が光と音楽で輝くこの特別なイベントを楽しんでみてはいかがでしょうか。

横浜・みなとみらい各エリアをブルーを基調としたLEDライトの鮮やかな光で包み込みます。イルミネーションと多彩なイベントを楽しめるみなとみらいで思い出作りをしてみてはいかがでしょうか。

2024年11月20日

横浜市南区真金町に鎮座する金刀比羅大鷲神社では

2024年11月29日(金)の「三の酉」で令和六年例大祭

「酉の市」を開催します。

縁起ものがたくさんついた縁起熊手が名物で新年の開運招福、商売繁盛を願うお祭りとして親しまれています。



「三の酉」まである年は火事や災いが多い」という言い伝えがあり、三の酉の年限定の江戸火消しの纏(まとい)に見立てた

「火除守り」が人気です。

2024年11月5日

【Live! 横浜 2024 とは・・・】

横浜を「音楽のまち」としてブランディングしていくため、みなとみらい21地区を中心とした都心臨海部の音楽施設・民間イベントや音楽団体、横浜市などが一体となって創り上げる新しいスタイルのフェスティバルです。大規模イベントをはじめ、音楽、ダンス、アニメなど多彩なジャンルを取り込み、8つの街なかステージを中心に30か所を超えるステージを一斉展開します。

大人も子どもも楽しめる、まち全体がライブで躍動する4日間をぜひ楽しんで見ませんか。

会期：11月9日（土）、10日（日）、16日（土）、17日（日）

会場：みなとみらい21地区を中心とした都心臨海部



2024年10月19日

【江の島シーキャンドル湘南キャンドルライトアップ】

いよいよ秋らしくなりましたね！

今年も江の島で秋を感じられるイベント

「湘南CANDLE」が始まりますよ。

江の島シーキャンドルを中心に、約10,000基のキャンドルが灯ります。

そこには、あたたかな光に包まれた幻想的な世界が広がっていますよ。

ぜひ暖かくして、この期間だけの江の島を楽しみに行ってみませんか？

期間：2024年10月20日（日）～11月4日（月）

会場：江の島サムエル・コッキング苑



2024年9月21日

「2024ふじさわ江の島花火大会」

開催日：2024年10月19日（土）

打上時間：午後6時～午後6時30分（30分間）

場所：片瀬海岸西浜

打上発数：約1800発（最大号数4号玉）

ふじさわ江の島花火大会は、湘南のシンボル、江の島をバックに片瀬海岸西浜から打ち上げられる湘南の秋の風物詩です。

多彩な花火で構成され湘南海岸の夜空を美しく彩り、ロマンチックな秋の夜を演出します。



2024年9月17日

「第17回小出川彼岸花まつり」

2024年9月21日(土)、藤沢市、茅ヶ崎市、寒川町を流れる
小出川沿いで「第17回小出川彼岸花まつり」が開催されます。
9月下旬から10月上旬にかけて、青少年広場(寒川町大蔵)、
大黒橋(藤沢市遠藤)間の小出川沿いのコース(3キロメートル)に、
彼岸花が咲き誇ります。天気の良い日には、遠くに富士山や
丹沢山系を眺めながら散策を楽しむことができます。



【花のみどころ】

小出川沿い 大黒橋～寒川町青少年広場の約3k

2024年9月10日

<鶴岡八幡宮の例大祭>

16日の流鏑馬神事中止

15日朝、流鏑馬練習中に20代男性が落馬し意識不明の重体となり
鶴岡八幡宮の流鏑馬は中止となりました。



毎年9月14日から16日までの3日間にわたり執り行われます。

献茶会、献華会、武道大会、日本舞踊などの神賑行事が続々と
奉納され、多くの参拝者で賑わいます。

【9月15日(日)】10時00分～：例大祭

神社本庁より幣帛を奉る献幣使を迎え、宮司以下神職、巫女、八乙女が奉仕し、大勢の参列者を迎えて
厳かに執り行われます。神前には鈴虫も供えられ、秋らしい虫の音が響きます。

【9月16日(月祝)】13時00分～：流鏑馬神事

境内の流鏑馬馬場にて、鎌倉時代さながらの狩装束に身を包んだ射手が、馬で駆け抜けながら3つの的
を射抜く勇壮な神事で、源頼朝公の時代より約800年の伝統を受け継いでいます。

2024年8月15日

横浜スパークリングトワイライト

ヨコハマのミナトを彩る5分間の花火の打ち上げ！

週末を中心に通年で花火と夜景を楽しめます。

横浜港を彩る花火をぜひ楽しんでみてはいかがですか？

会場：横浜港（新港ふ頭、大人さん橋他）



2024年8/31、9/14・21、10/12・26、11/2・9・16、12/7・24 横浜スパークリングトワイライト
開催時間：2024年8月、9月の開催 20:00～20:05。

2024年10月～12月の開催 19:00～19:05

打ち上げ数 約150発

2024年7月30日

鶴岡八幡宮では、2024年8月6日～9日の4日間「ほんぼり祭」が行われます。

鎌倉市内や鶴岡八幡宮にゆかりのある著名人が書いた書画約400点がほんぼりに仕立てられ、参道に並びます。夕刻になると明かりが灯り、幻想的な光景が広がる魅力溢れるお祭りです。ほんぼり祭の期間中には、「夏越祭」「立秋祭」「実朝祭」の3つの神事が執り行われます。

【夏越祭】8月6日 15時～（立秋の前日）

夏の邪気を祓う神事が源氏池のほとりで行われた後、参道で「茅の輪くぐり」を行い、健康を祈願します。舞殿では巫女により「夏越の舞」が奉納されます。

【立秋祭】8月7日 17時～（立秋の日）

夏の無事を感謝し、実りの秋の訪れを奉告する昭和25年より始められたお祭りです。

ご神前には神域で育まれた鉢虫が供えられます。

【実朝祭】8月9日 10時～（場所：白旗神社）

源実朝公の誕生日に執り行うお祭りで、昭和17年より始められました。

実朝公の遺徳をしのぶとともに、文芸に優れた実朝公にちなみ、例年、短歌会が催されます。



<鶴岡八幡宮・夏越祭>

2024年7月27日

「関東三大阿波踊り」の一つ「神奈川大和阿波おどり」が7月27日、28日に開催されます。

地元連のほか、全国から多くの連が参加し、

鉦や太鼓の音が鳴り響く中、色鮮やかな衣装をまとった踊り手たちが熱い演舞を披露します。

28日16時からの「総踊り」は圧倒的な迫力で観客を魅了するものです。

観ても踊っても楽しめる大和の夏の風物詩です。



<令和6年大和阿波踊り>

2024年7月20日

日本各地には独自の伝統と文化が息づく祭りが数多く存在します。

暑い夏は日本の祭りのエネルギーが爆発する季節。

7月から日本各地で沢山の夏祭りが開催されます。

見るだけではもったいない!! 参加して地元の人々と一緒に声を出して盛り上るるのは如何でしょうか。



<令和5年須賀神社例大祭>